



京都府京丹後市

京丹後市峰山町杉谷691
 担当課：健康長寿福祉部健康推進課
 〒627-0012
 ☎0772-69-0350 FAX0772-62-1156
<http://www.city.kyotango.lg.jp/>
 Eメール：kenkosuishin@city.kyotango.lg.jp

本市のデータ



(1)面積 501.85km²

(2)人口 (人)

35国調	12国調	17国調	22国調	27国調
80,106	65,578	62,723	59,038	55,054
65歳以上人口比率(22国調)				35.3%

(3)世帯数

35国調	12国調	17国調	22国調	27国調
17,087	20,495	20,968	20,690	20,469

(4)沿革

平成16年4月1日合併(市制施行)
 峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町

(5)産業構造

区分	就業人口 45国調	就業人口 17国調	就業人口 22国調	就業人口 27国調
1次	12,286人 27.5%	3,622人 10.9%	2,714人 9.5%	2,317人 8.6%
2次	20,502人 45.9%	11,891人 35.9%	9,215人 32.1%	8,331人 30.8%
3次	11,896人 26.6%	17,473人 52.8%	16,745人 58.4%	16,365人 60.6%
計	44,697人	33,111人	29,717人	28,457人

本市の概要

京丹後市は、海岸全体が山陰海岸国立公園と丹後天橋立大江山国定公園の二つの自然公園に認定された風光明媚な地域である。ブランド化されつつある間人ガニ、久美浜湾の牡蠣、三年連続食味特Aの丹後のコシヒカリなどの農林水産物、産業には日本一の生産量を誇る丹後ちりめん、古代ものづくりのふるさとに起源する機械金属生産など先人たちが残してくれた自然環境・遺産や歴史・文化など新しい時代に求められる魅力、宝をふんだんに有している。

特に観光面においては、平成22年10月4日に科学的に見て特別に重要で、美しい地質遺産を持つ自然公園であるという「山陰海岸ジオパーク」として兵庫県・鳥取県とともに「世界ジオパークネットワーク」に認定を受けたところであり、それを観光に生かすべく様々な取り組みを推進することとしている。



支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

京丹後市では、平成26年3月に「京丹後市自殺のないまちづくり行動計画」を策定し、「誰一人置き去りにしない、いのちが一番大切にされる、生き心地の良い『いのちを護る』まちづくり」を基本理念に設定しました。

自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こり得る危機」ですが、誰かに援助を求めることができず、様々な要因を抱えながら支援に辿り着けずにいる人たちと同じ側に寄り添い、生きることの阻害要因を一つずつ丁寧に取り除くため、関係機関・団体と連携・協働して「包括的な生きる支援」に取り組んでいます。

また、「市民みんなでのちに向きあうゲートキーパー推進計画」を実施し、ゲートキーパー養成に取り組んでいます。

<具体的な取組み>

1. 総合的な取組の推進及び関係機関との連携 【平成18年11月22日～】

- (1)京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会の設立（構成:16団体、参与:京都いのちの電話）
- (2)京丹後市自殺ゼロ実現連絡会議の設置（構成:庁内13部署）



2. 専門相談体制

- (1)平成19年4月～「多重債務相談・支援室」を設置（市の専任職員を配置）
債務整理から生活再建まで専任職員が弁護士等と連携して対応、相談料無料
- (2)平成22年10月～臨床心理士による「こころの健康相談」（無料カウンセリングの実施）
- (3)平成23年4月～「パーソナルサポートセンター」（「くらし」と「しごと」の寄り添い支援センター）を開設
生活困窮者等に就労や社会参加の機会を作るため、制度横断的に問題対応の実施
- (4)平成25年8月～「寄り添い支援総合サポートセンター」を開設
『くらし』と『しごと』の寄り添い支援センター」内に、「市民相談室」、「多重債務相談・支援室」、
「消費生活センター」を移転し、相談から支援までをワンストップで行う体制を整備
- (5)平成26年度～「くらしといのちの総合相談会」を年4回実施（別枠として、「年末相談会」も開催）
- (6)平成28年度～担当課に臨床心理士を配置 こころの健康相談を月2回実施等体制を強化

3. 電話相談：京丹後市自殺予防フリーアクセス（市民専用通話無料／通話料金は市負担）

- (1)平成20年4月～ 「いのち」（京都いのちの電話） 「はなし」（京都府精神保健福祉総合センター）
※通話料金負担は平成29年度末で終了

4. うつ病対策・こころの健康対策 【健康教育、出前講座】

- (1)平成20年1月～うつ予防紙芝居「こころの風邪」
- (2)平成20年4月～こころの健康づくり「こころの健康塾」
- (3)平成24年12月 保健師などが睡眠健康指導士の資格を取得
- (4)平成26年度～「出前講座」のメニューに「こころの健康塾」を追加



5. 講演会・こころの健康相談会

- (1)平成19年度 「“自殺予防”～いま私たちにできること～」（NPO法人ライフリンク代表 清水康之氏 他）
- (2)平成22年度 「うつ病の理解と対応」（京都府精神保健福祉総合センター所長）：参加 128人
- (3)平成23年度 「笑顔と笑いでストレス社会を生きぬこう」（精神科医 北畑英樹氏）：参加 157人
- (4)平成24年度 「笑いは心と脳の処方せん」（産婦人科医 昇 幹夫氏）：参加 172人
- (5)平成25年度 「人を幸せにする言葉の力」（作家・教育評論家 中井俊巳氏）：参加 73人
- (6)平成26年度 「元気なこころの育て方～いきいきと生活するための認知行動療法～」
（関西福祉科学大学 社会福祉学部 臨床心理学科 三田村仰氏）：参加 100人
- (7)平成27年度 「こころの健康について考えよう～あなたが大切な人にできる5つのこと～」
（㈱ありがトン 代表 自己感謝スキルトレーナー 澤登和夫氏）：参加 137人
- (8)平成28年度 「こころの笑方箋～笑いは健康の常備薬～」
（薬剤師・日本笑い学会理事 中井宏次（薬家きく臓）氏）：参加 88人
- (9)平成30年度 「うつ病の治療と回復」（第二北山病院院長 土田英人氏）：参加64人

6. ゲートキーパー研修（市独自の呼び名「こころ・いのち・つなぐ手研修会」として実施）

- (1)平成23年度～ 現在までの受講延人数:5,809人
- (2)平成25年度～ 職員全員ゲートキーパー養成研修を実施（1,053人が受講）
- (3)平成26年度～ 市保健師がゲートキーパー養成講座の指導者になるための研修会を実施
◆研修会の修了者には、「こころ・いのち・つなぐ手帳」を配布
◆平成28年度よりゲートキーパー研修（中級講座）修了者によるグループ「つむぎ」を結成し、会議を開催し、自殺予防対策についての意見交換や街頭啓発等の啓発活動を実施している。

7. こころの健診（うつスクリーニング）

- (1)平成26年度～ 総合検診結果報告会において、うつ病やこころの病気に関する一次スクリーニングを実施し、チェック票の結果に基づき、同意を得た市民を対象に二次スクリーニングを実施。ハイリスク者に対してこころの健康相談、電話相談、訪問などでフォローした。
※現在まで、2,518 人を対象に実施

8. 啓発事業

- (1)街頭啓発 自殺予防週間、月間等に合わせて年間4回、ショッピングセンター等で啓発グッズを配布
- (2)ストレスチェック 文化祭でストレスチェック、啓発グッズを配布
- (3)図書館特設コーナー設置 自殺予防週間・強化月間にあわせて、自殺予防に関連する本の紹介、展示をしている。

9. 若年層支援

- 「Teens こころの葉」の作成
来年4月に新生活を迎える小学6年・中学3年・高校3年を対象に、新しい環境のもとで悩んだり、心が疲れた時に「SOSを発信していいんだよ!」というメッセージを伝えるため、相談窓口や連絡先を掲載した葉を配布

10. 癒しのカフェ通仙亭

- 平成30年度より悩みを抱えるかたや孤立したかたを住み慣れた地域で支えるため、運営委員会が主体となり開設。相談員はゲートキーパー研修修了者や精神障害者家族会が務める。（平成30年度利用者:19人）